

師匠から弟子へ、 父から子へ伝える太鼓

川巻の太鼓



佐藤 良悦さん(新丁)

昔から太鼓はとても大事なものでした

小学生の頃から始めて45年くらいになります。現在、川巻の太鼓を受け継いでたたいているのは、私と佐藤二三男さんの2人だけで、先輩たちは年をとってしまいました。

太鼓は大事なものでしたから、置いてたたくと傷むということで、扇田の太鼓は浮かしてたたくのが流儀でした。上手にたたくのが流儀でした。上手にたたくと太鼓には触らせてもらえません。革が破れると何十万だから仕方ないけれど、後

継者の育成という意味から見れば厳しかったかもしれません。

何年か小学生に教えたこともありましたが、自分の後継者を育成することは、なかなか難しいです。

来年からは、息子たちにやらせたいと考えています。やる気はあるようだし、おやじのやっているのを見て育っているから分かるだろうけれども、お互いに忙しくて時間がとれないのが難点ですね。



筒井美佳子さん(谷地町)

太鼓の音で、実家に帰ってきた実感がわきます

師匠は、佐藤良悦さんです。師匠のように、浮かせてたたくのは難しいですが、私は女性なので一番小さい太鼓をたたかせてもらっています。

小学生のときに友達と一緒に始めて、それ以来やっています。友達が先に結婚して来なくなって、その後私も結婚したので来れなくなりました。

覚えるのは簡単ではありませんが、一度身に付けば忘れないですね。私は5つの演目のうち、4つまで覚えてもらいましたが、あと一つ覚える前に嫁いだので、残念でした。

夫の転勤があるので、戻ってきて太鼓をたたくのは難しくなりました。最近近くに来たので、皆さんに声をかけてもらって参加しています。

この太鼓をたたくと、「扇田に帰ってきたなあ」という実感がわきます。機会があれば、子供たちにもやらせてみたいですね。

市巻の太鼓



渡邊 鐵夫さん(市川)

**子供たちに
もっともっと来て欲しい**

扇田に来て、今のメンバーと太鼓を練習して25年くらい。今では私のふるさとの太鼓です。

みんなの太鼓といかに合わせることが難しいところです。誰かが早くなると、みんながそれに引っ張られる。遅いとバラバラになってしまいます。

うちは、3人子供がいるけれども、みんなそれなりにたたきます。私の後を付いて来て覚えたいようなもんです。息子は、太鼓たたきに毎年戻って来るんだから、やはり好きなんだね。

市巻の太鼓は市川の人間が受け継ぐ、というのは難しい時代になりました。やりたい人、興味のある人が太鼓に触れることができるように、小さい子供たちには、もっともっと来てもらるように働きかけたいですね。

好きな太鼓をたたくために、毎年戻ってきます

今は酒田に住んでいます、毎年この太鼓をたたくために帰って来ます。去年は鷹巣で行われた、県の民俗芸能大会にも参加しました。

父親の後を付いて、物心がついたころにはたたいていらしいです。同世代の仲間は居なくて、私だけでした。今は、5種類の太鼓が全部できるようにになりました。かつて講習会に参加した人も、続ければ2年くらいでマスターできるんじゃないかな。

酒田にも北前太鼓があるし、全国にいろんな太鼓があります。扇田の太鼓はすごいと思ったりします。置いてたたく太鼓と違って、浮かせてたたく太鼓は難しいからね。俺は、なで肩だから特に難しい(笑)。久しぶりにたたいたので、手にマメができました。



渡邊 恭平さん(酒田)